

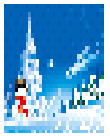
男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信No.5

事務局：秋田県立養護学校天王みどり学園

発行：平成26年12月1日



各市町村の実務担当者との情報交換を終えて



今年度1回目の本協議会で、2回目は「地域の子どもは地域で育てる」をキーワードに、支援を必要とする子どもの情報を共有できるネットワークの構築を検討するために、各地区（2市3町1村）ごとに開催することにしました。

1 各地区ごとに協議会を開催する目的

- (1) 関係機関が連携するケースが増えてきた。（発達障害、不登校や虐待、家族支援等）
 - (2) 早期からの相談支援体制の整備が進んできた。（5歳児健診や就学支援シートの作成）
 - (3) 就学先の決定において保護者との合意形成が重要になってきた。
 - (4) 各市町村・学校（園）の自己解決力が求められている。
 - (5) 天王みどり学園が地域の学校（園）訪問して得た情報を伝える場が少ない。
- 子どもを取り巻く状況が変化し、関係者による連携した支援が必要になってきました。

2 情報交換の内容

- ・就学指導委員会、要保護児童対策協議会、障害者自立支援協議会等、定期的に子どもの情報交換をする組織はある。町村によっては、月1回、園・校長会を開催している。
 - ・各部署で特別な支援を必要とする子どもの情報をもっているが、それを共有する場が少ないと感じている。特に移行期の情報が大切である。
 - ・何か新しい組織を立ち上げるためには、様々な会議が必要となる。連携の大切さを強くアピールできる材料が必要である。どこの部署が担当するかなど、難しさがある。
 - ・特別支援教育課が示した様式を参考にして、今年度から就学支援シートを作成した町が増えた。
 - ・次年度以降の取り組みにつなげるために、実際に子どもの情報交換を行うケース会議を開催してはどうか。
 - ・毎年11月に就学指導委員会を開催しているが、子どものフォローアップのために、回数を増やしたり、メンバーを変えたりしたい。
- 5歳児相談会の実施・検討、就学支援シートの作成・活用等、県内に発信できるくらい相談支援体制が整備されてきたことを実感しました。



3 各市町村の動向

- ・男鹿市～大館市の5歳児相談会を視察 就学指導委員会のメンバーの見直し
- ・潟上市～就学指導委員会の名称変更に加えて、メンバーや機能の見直し
- ・井川町～今年度から就学支援シートを作成 就学指導委員会の開催時期等の見直し
- ・八郎潟町～今年度から就学支援シートを作成 来年度「かがやき手帳」を配付予定
- ・五城目町～昨年度始めた就学支援シートを改善 今年度から発達相談会を実施
- ・大潟村～かがやき手帳を配付予定 来年度就学支援シートを作成予定

2回目の協議会は1月下旬から2月中旬を予定しています。開催が決定している市町村もありますが、案内発送の都合もありますので、決まり次第事務局（☎018-870-4611担当：加賀谷・島津）に連絡をお願いします。

4 男鹿潟上南秋地区「就学支援シート」の活用状況

・就学支援シートとは、家庭や幼稚園・保育所（園）における様子や有効な指導方法を小学校に引き継ぎ、入学後のスムーズな学校生活を送るために作成する資料である。

(1) 配付時期・方法（作成の流れ：教育委員会⇒保護者・園⇒教育委員会⇒小学校）

- ・就学時健診の案内と一緒に配付し、健診の事前資料として活用する。
- ・就学時健診のときに保護者に説明した上で配付し、年度末に小学校に届ける。

(2) 作成対象児

全員対象（五城目町・八郎潟町・井川町）
保護者の同意を得た幼児（男鹿市・潟上市）

(3) 成果

- ・食べ物やアレルギー等、細かいことを伝えられるので安心できる。（保護者）
- ・入学前の学校の対応や入学後における支援内容を考える参考資料となる。
- ・子どもの指導について、保護者と指導者側が共通理解できる。
- ・保護者の子どもへの思いや理解度・考え方を知ることができる。
- ・保護者との面談を進める際の手掛かりとなる。
- ・子どもの就学について保護者と考えるきっかけになる。
- ・学級編制や担任配置、個別の指導計画の作成時の参考資料となる。
- ・作成対象児が全員だと、全ての子どもの情報が分かるのでありがたい。



(4) 課題

- ・対象児が全員だと記入するのが負担である。記入項目が多すぎる。全て記入しなければならない様式になっている。→書きやすい様式の改善が求められる。
- ・記入欄が保護者と一緒になっているため、よいことしか書けない。
- ・就学時健診後に成長の変化がみられるため、記入時期は冬期間でもよい。
- ・就学支援シートは子ども理解の一つに手段であり、シート以外の方法（顔の見える引継ぎ、交流会等）も併用して実態把握や支援内容の共通理解を図りたい。



発信! 事務局ニュース



(1) 「就学や教育に関する相談会」 平成26年8月18日（月）総合教育センター

- ・男鹿潟上南秋地区の昨年度の相談件数は8件、今年度は16件でした。増えた理由としては、幼稚園・保育所（園）と教育委員会との連携強化が考えられます。相談会をきっかけに検査や園訪問につながったケースもありました。

(2) 気になる子どもをチームで対応！

- ・これまで保育園には、みどり学園の職員だけ訪問していたのですが、今年度は保健師と一緒に訪問する機会が増えました。小さい頃から子どものことや保護者の様子を知っている保健師の存在は、保育者にとっては心強い味方です。

(3) 小さな連携がスタート！

- ・11月21日に羽城中学校区「小・中連携研修会」がありました。羽城中学校、飯田川小学校、大豊小学校の特別支援教育コーディネーターが、自校の特別支援教育に関する情報交換をしました。小学校から中学校への移行支援が話題になりました。

(4) 障害を自分たちの問題としてとらえよう！

- ・天王みどり学園では、昨年度から男鹿潟上南秋地区の小学校を中心に、「障害理解教育」出前授業を展開しています。これまで延べ7校15回実施しています。内容は、みどり学園の紹介、障害特性と支援について、車いすや困り感の体験です。来年度は、中学校や保護者にも広げていきたいと考えています。